

社会人基礎力協議会News



第9号 2022年4月25日発行

1 2021年度 社会人基礎力育成グランプリ全国決勝大会開催

グランプリ委員会

「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」は、大学等での社会人基礎力の育成に関して大きく成長をとげた学生らの表彰を通じて、各大学の効果的な取り組み事例を広く多くの方々に周知する趣旨で開催しています。2021年度のグランプリは、協賛企業の皆様、各大学等関係者の皆様のご協力を得て、日本商工会議所および公益社団法人経済同友会のご後援、オブザーバーに経済産業省を迎えて開催しました。全国から参加総数32チームで開催することができました。2月に開催した6地区の予選大会で最優秀賞を選出。3月10日には各地区最優秀チーム6チームが集い、全国決勝大会を開催しました。大会は昨年引き続きモートで行いました。決勝大会では、学生らが成長へとつながった活動での数々のエピソードがプレゼンテーションされました。また教員による授業等の取り組み内容、その狙いなど説明もあり、社会人基礎力育成に関する大きなヒントが得られました。

開催概要

日時・場所： 2022年3月10日(木) 13:00～17:20 オンライン開催（WebexミーティングおよびYouTubeライブ配信）
 審査員長： 実践女子大学 文学部 国文学科 教授 深澤 晶久氏
 審査員： 株式会社ウチダ人材開発センタ 常務取締役 金子 栄司氏
 株式会社博報堂 TOKYO2020推進室長 川西 太士氏
 経済産業省 経済産業政策局 産業人材課 課長補佐 橋本 勝氏
 株式会社日経HR コンテンツ開発室長 渡辺 茂晃氏（以上、審査員は50音順）

出場チーム・発表テーマ・全国大会結果

地区	学校名	テーマ名	大会結果
北海道	苫小牧工業高等専門学校 創造工学科フロンティアコース	外国人を対象とした防災教育プログラムの開発と実践	準大賞 協賛企業/団体賞
東北・関東	創価女子短期大学 国際ビジネス学科	women's empowerment	大賞
中部	愛知学泉短期大学 食物栄養学科	栄養士の卵たちの新たな挑戦 ～角麩のパッケージをデザインをすることからの学び～	
近畿	摂南大学 経営学部	人工知能を用いた障がい者の就労可能性の向上に資する、DX協働基盤の開発と社会実装のための実践研究	準大賞
中国・四国	福山大学 大学教育センター	福山市内にある子ども食堂の課題解決 ～PR動画作成 & Webアンケート～	
九州・沖縄	熊本県立大学 総合管理学部	国内大学のモデルとなるオンライン研究室同窓会の企画と実行	審査員特別賞



- ①社会人基礎力大賞 創価女子短期大学
- ②社会人基礎力準大賞 苫小牧工業高等専門学校
- ③社会人基礎力準大賞 摂南大学

全国決勝大会動画 https://biz100.org/gp2021_movie
 上記からお申込いただくと動画を閲覧いただけます。
 （期間限定 2022年5月31日まで）

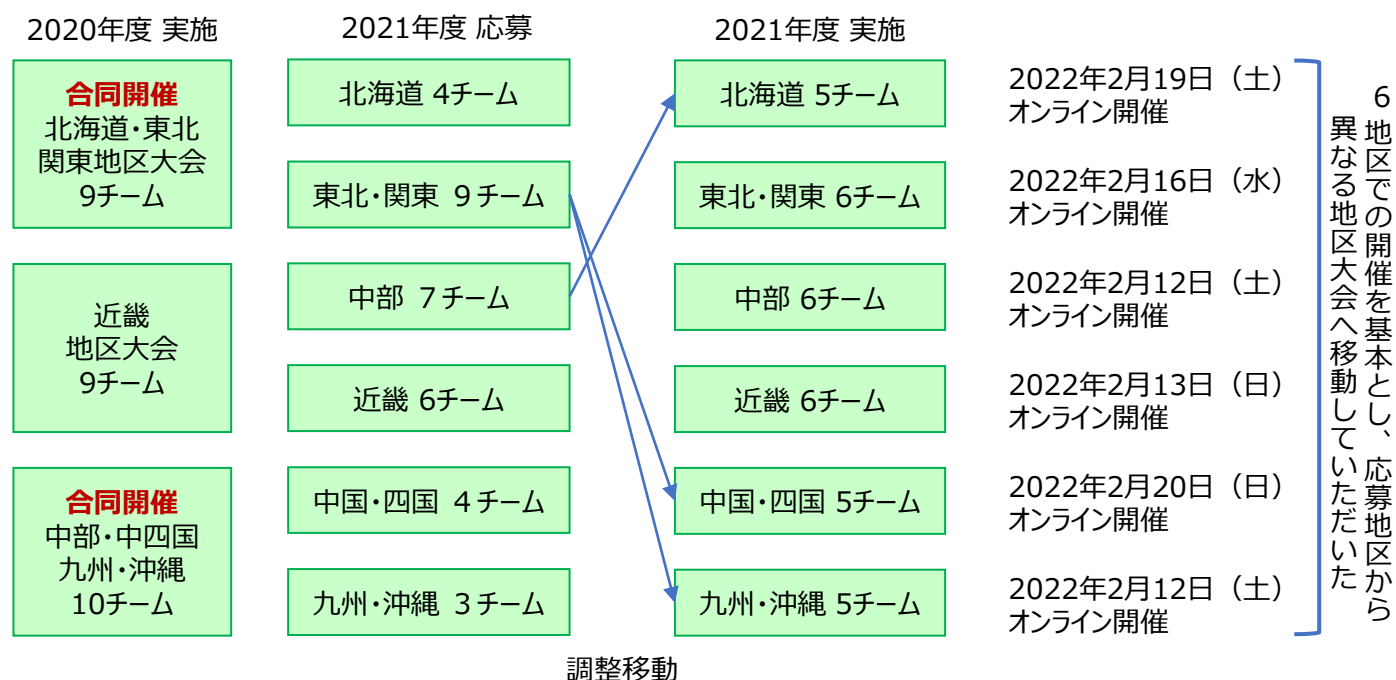
2021年度の大会運営は、昨年に引き続きオンライン開催としました。昨年度は初めてのオンライン大会であり、参加者の減少などが懸念でした。実際に大会を開催すると、やはりコロナの影響のためか参加チーム数の減少がみられた一方で、新たな地域からの参加もありました。この理由は、オンライン開催のための参加のしやすさがあつたと評価しています。そこで本年度は、コロナ感染症の終息も見通せない一方で、早くからオンライン開催を決め、参加チームを募集しました。結果、昨年度から比べて新たに参加する大学等があり、結果として昨年度の28チームよりも増加した33チームの応募となりました。

オンライン開催の是非

オンライン開催が良いのか悪いのか、これには様々な観点ががあります。一つに参加者の熱量が伝わらないのではないかという懸念があります。2年間の運営を通して、審査員等からのご意見からは、オンラインでも対面と変わらない熱量で伝わるプレゼンテーションになることがわかったと評価をいただいております。双方向のリアルタイムな開催であること、登壇者、参加者もオンラインに慣れてきていることが理由として考えられます。別の観点では、参加者交流の機会が持てないという懸念があります。これに関して、大会中の審査の時間にブレイクアウトルームを使った交流企画を実施し、有意義な参加者間交流のできることがわかりました。さらに別の観点では、予選大会を各地区で開催する「地域性」が曖昧になるという懸念があります。当協議会では、大会自体は「地域性」なく運営できるかもしれないが、地域性のある取り組み事例や地域の人材育成の観点もあり、地域企業、団体に地元の大学等の活動、学生の活躍を周知し、ご理解いただくとともに、ご支援いただくことを考えると、地域での開催は、審査員などのご協力を面でも大切であると考えます。今後もオンライン開催の良い面、悪い面を常に評価しながら、その是非を考え続けたいと思います。

オンラインならではの遠隔地参加！予選参加校数の平準化の工夫

地区予選大会ごとで参加チーム数に偏りの無い方がよいとの方針から、昨年度は、応募状況に応じた複数地区の合同開催を行いました。偏りが小さくなった一方で、地区予選大会の「地区」の意義などを考え直す必要も出ました。そこで2021年度大会は、6地区予選大会の開催を基本とし、地区応募が1チームでもあれば、その地区での予選大会は実施とし、全体の応募総数から基準チーム数を算出、基準より多い地区から、基準より少ない地区へ抽選で移動していただくことを前提とした募集としました。実際、応募の多かった東北・関東地区から3チーム、中部地区から1チーム他地区へ移動していただきました。地区予選大会の日程が各地区で異なり、応募締め切り後に抽選が行われることから、応募チームにとって計画の立てづらい大会運営になり、事前に周知しているとはいえ、心苦しい面がありました。ありがたいことに、このことによる参加辞退は起こらず運営ができました。移動をお願いしたチームからは、地域間交流で楽しいという声もいただきました。本当にありがとうございました。



地区大会の様子 Webexミーティングに発表者・関係者が集合（数十名規模）

2月26日 リカレント委員会の2月度フォーラムを開催いたしました。下記のご講演の後、7グループに分かれて「どうしたら社会人は学び続けられるか」というテーマで意見交換をしました。なぜ学び続けられないのか、日本における学びの現状、企業における学びの現状などについて話したり、動機づけ（目的を持つことなど）や学びをどう活かすか（アウトプットすること）にも議論が及びました。

講演テーマ

社内新規事業を通じた社会人基礎力の開発プロセス

講師

谷口 正一郎（たにぐち しょういちろう）氏 株式会社 TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) 常務取締役

講演内容

① 挨拶、プロフィール

社内ベンチャーに応募し現在2社を経営。ひとつはTGG。体験型語学学習施設。50か国200名以上の外国語スタッフと一緒にさまざまな英語プログラムを通じ海外の街並みを疑似体験できる。小学生、中学生、高校生と年間10万人以上の利用がある。大人向けプログラムもあり。もうひとつは株式会社ドントコイ。オンライン中国語講座。さらに大学院博士課程在学中。主に社内起業家および組織開発研究に従事。

② 学研グループの概要（教育事業約54%、医療福祉事業約42%）

③ 私の（社会人生活）24年間でふりかえり

大学卒業後、本が好きだったので出版社を選択。本の営業（訪問販売）に従事。その後社内ベンチャー募集に100の新規事業企画を提案。担当事業に従事するに当たり専門的な知識の必要性を感じ関連する資格を数々取得。今もインターネットビジネス（オンライン学習）の可能性に刺激を受けている日々。どうしたら企業家（起業家）になることができるのか。興味のあることを学ぶ⇒実践で活かす（探す）、実践していることを学ぶ⇒実践を見つめ直すことが必要。大人の学びは7つの志向性タイプを認識することが重要。これまでの会社、リーダーへの提言は先輩の姿に学ぶことが大きい。

総評

今回のフォーラムの総評として、長尾代表理事から、リカレント教育とは、回帰教育、循環教育そして学び直しであり、働くこと（キャリア）を前提に仕事に活かせる知識を学ぶこと、生涯学習（趣味・生きがい）と混同しないこと、社会とつながっていくことが大事であるという原点の確認をして、盛会のうちに終了しました。

（副委員長 渡邊明男）

4 2021年度 リカレント委員会活動報告

2021年度を振り返って

昨年よりオンライン開催に変更し、5回の勉強会（フォーラム）と年次大会を開催しました。オンライン開催も定着化し、参加者も徐々に増加してきました。初回の田辺名誉教授の講演では、未来を創る思考にはじまり、社会人として必要な能力を、学び続ける方々にご講演を頂きました。宮崎氏、松田氏、谷口氏はそれぞれ社会人になってから大学院で学ぶリカレント教育の実践者であり、久米氏は、衣料企業の経営者でありながら、地元の専門職大学院で教授をされています。講演者に共通していた事は、社会的にひとつの立場ではなく、多数の立場で活躍されている兼業家の方々でした。

フォーラム各回の主なテーマと講演者

- 第1回 「『未来を創る思考』と社会人基礎力」田辺孝二氏（東京工業大学名誉教授）
- 第2回 「withコロナ時代における働き方と学び方」宮崎翔太氏（日本マイクロソフト株式会社 地方創生担当部長）
- 第3回 「Let's talk about Our Lifetime Learning.」松田太一氏（株式会社松田太一代表取締役）
- 第4回 「DX革命でAIに負けない社会人基礎力鍛錬法」久米信行氏（iU情報経営イノベーション専門職大学教授）
- 第5回 「社内新規事業を通じた社会人基礎力の開発プロセス」谷口正一郎氏（株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAY 常務取締役）

2022年度に向けて

2021年度は、比較的個人のリカレント教育の実践者の講義が多くなりました。22年は政府も「新しい資本主義」と題して、企業の評価に、非財務情報である「人的資本管理」を重視する動きがあります。これに関しては、欧米でISO30414が制定されたり、米国証券取引所（SEC）が、企業の情報開示を義務つけるなどの世界的な動向でもあります。リカレント委員会としては、この社会情勢を企業が組織として、従業員を大切に投資し育成していく方向の追い風と考えております。

そこで、2022年度は、「新しい資本主義の時代に必要な社会人基礎力」と題して、企業が組織として従業員へのリスクリング等の教育投資の動向や、社会人個人の学びの実践者の事例など、組織と個人の活動事例をご紹介する講演を行い、情報交換を継続してまいります。

（副委員長 渡邊明男）

2021年度を振り返って

研究委員会の主な活動は、社会人基礎力に関する研究であり、機関誌の発行を中心に社会人基礎力に関する情報発信を行っています。新型コロナウイルスによる外出の制限等により対面活動が制限され、2年が経ち、私たちの生活はオンラインの社会にすっかりなじんでいるかのようです。学校教育では2000年当時から20年以上も続いてきた長いICT教育の取り組みの成果が出たともいえます。GIGAスクール構想も前倒しされ、PCは一人一台が当たり前の今日この頃です。

このような社会において、社会人基礎力の在り方も少しずつ変化してきていることは確かです。2022年度は、Withコロナを念頭に考えることは必須となりそうです。研究会では、DX、Withコロナ、AIなどの新しい側面を念頭に研究活動を進めていきたいと考えています。

社会人基礎力学修交流研究会

社会人基礎力学修交流研究会の議論のテーマは、「学び続けるための社会人基礎力」とし、遠隔会議システムを利用することにより、広く各地域から参加者を募り、年2回の開催を行っています。

参加者は、学生、企業の方、教育関係者等で構成します。

2021年度の研究会のテーマは「プロジェクトマネジメント」で、コロナ禍により集まって議論することができなかつたため、Zoomを用いハイブリッド形式で実施しました。広く多くの方の参加が可能なオンライン形式の研究会は、しばらくこの形式で進めます。この、新しいディスカッションの形で、新しい社会人基礎力をイメージすることを期待します。今年度の7月の研究会では、「データの価値について考える」と題して、アルファークラブ武蔵野の篠田氏に、発表していただきました。議論のテーマは、コロナ禍に企業において新たな事業転換を行った際の、タイプ分けを、【アナリティカル】【エミナブル】【ドライビング】【エクスペリッパ】の4つの項目として取り上げました。これは、年齢、キャリア年数、役職、配置部門等によって、変化していくものであることから、社会人基礎力との関係を議論することができました。来年度もあらゆる研究分野からの視点で議論できることを期待しています。

社会人基礎力を研究したいとお考えの方であればどなたでもご参加できます。お気軽にご参加ください。（研究会での発表の様子）



機関誌の取組みについて

2021年度の機関誌『社会人基礎力研究』は3月に第3号を発行することができました。

今年度は、7本の原稿を掲載することができました。キャリア教育、リカレント教育など、社会人基礎力に関連する事であれば、どのようなテーマでも掲載可能です。第4号への皆様からのご投稿お待ちしております。

（委員長 栗田み子）

6 一般会員・学生会員・賛助会員 随時募集中

事務局

一般社団法人社会人基礎力協議会では、一般会員・学生会員（個人）、賛助会員（企業・団体）を随時募集中です。

以下に概要をご紹介します。協議会活動に賛同いただける皆様のご応募お待ちしております。詳しくは協議会HPをご参照ください。

種別	対象・会費	特典
一般会員	個人 年会費 1万円	① 機関誌『社会人基礎力研究』に投稿できる ② 機関誌（年1回）とニュースレター（年3回）の最新号および各種イベント・勉強会の案内を受け取ることができる
学生会員	学生 年会費 免除 （在籍期間内）	③ リカレント勉強会参加および発表の機会を得られる ④ 年次大会参加および発表の機会を得られる
賛助会員A	法人・団体 年会費 20口以上（1口1万円）	① <グランプリ委員会特典> 企業広告掲載（Aのみ）、協賛企業/団体賞審査委員、学生交流会招待、協賛企業/団体一覧
賛助会員B	法人・団体 年会費 10口以上20口未満（同）	② <研究委員会特典> 広告ページ掲載（Aのみ）、論文/事例投稿、機関誌、ニュースレター（最新号）
賛助会員C	法人・団体 年会費 1口以上10口未満（同）	③ <リカレント委員会特典> 当協会によるコンサルティング及び事業監修（別途有償、Aのみ）、年次大会講演（A）参加（B・C）、フォーラム/勉強会講演（A・B）事例紹介（C）



会員規則
（入会案内）

編集
後記



関係者の皆様のご支援、ご協力によって、本協議会にとって最大のイベントである社会人基礎力育成グランプリを今年も無事開催できました。YouTube配信をご覧いただいた皆様も多数いらっしゃいます。事務局の私たちとしても、回を重ねるごとに発表事例のレベルアップを強く感じております。さらなる社会人基礎力強化に向けて力を注いでまいりたいと思います。

このNewsでは大学や企業における社会人基礎力強化に役立つ情報を取り上げていくために、会員の皆様からの事例情報を随時募集しております。記事へのご意見、取り上げて欲しいテーマのご要望などもお待ちしております。左記QRコードの協議会HP「お問合せ」フォーム、または、下記事務局メールへお気軽にご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。

（担当：研究委員会副委員長 人材開発コンサルタント 山崎 紅）